

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 3月31日現在

機関番号：17601  
 研究種目：若手研究（B）  
 研究期間：2008～2011  
 課題番号：20720097  
 研究課題名（和文）  
 東アジア圏における中国古典小説の現代的意義と価値について  
 研究課題名（英文）  
 A study of the modern meaning and value about the Chinese classic novel in the East Asia  
 研究代表者  
 上原 徳子（UEHARA NORIKO）  
 宮崎大学・教育文化学部・准教授  
 研究者番号：50452917

## 研究成果の概要（和文）：

中国語文化圏では現在も小説に限らず様々な形で古典を娯楽作品や芸術作品として取り入れている。調査の結果、現在も明代短篇小説のテレビドラマ化が進められていることがわかった。また、映像化の傾向には90年代の原作に沿ったものから2000年代に入ってから思い切った翻案をする手法へと変化が見られる。我々がこの事象について考察するとき、原典とされる小説が何であるかや登場人物の服装や言葉遣いが古いことに注意するだけではなく、現代人がその枠組みを必要としていることに注目すべきである。これはなにより中華文化圏では「古典」が文化の根底にあることを示しているのである。

## 研究成果の概要（英文）：

In the Chinese cultural sphere, the classic novel is taken in various forms still now. From this investigation, we have known that dramaizing of the Ming dynasty's short novel has been advancing still now. We can say that in the Chinese cultural sphere "classic" is on the bottom of culture.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	422,640	126,792	549,432
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	2,322,640	696,792	3,019,432

## 研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、各国文学・文学論

キーワード：中国古典小説、東アジア、受容、価値

## 1. 研究開始当初の背景

中国語文化圏は、驚異的な速度で情報化が進んでいる状況であるが、人々は様々な形で古典を娯楽作品や芸術作品として取り入れている。研究代表者が元来研究の対象としてきた「杜十娘」の物語は、香港の戯曲作家杜国威が『Miss杜十娘』として発表し、映像化もされている。この「杜十娘」

の話は、『警世通言』巻三十二に収められており、京劇にもなり、中国の民衆に広く知られ、映像化も複数回行われている。しかし、『Miss杜十娘』は、これまでとは全く違うヒロイン像を描いた。古典作品に自分なりの解釈を加える動きは、一般の人々にも及んでいる。自由な文学作品の「読み」すなわち解釈が、ブログにより発表され、私たちは簡単にそれらを見ることが出来る。

現在、映像・活字の送り手と、読者、そしてブログ等で古典小説について自分の見解を発表する受け手であると同時に発信者が存在しており、この三者間で古典作品は環流しているといえる。この環流は商業経済の中でこそ起こるものであり、現代社会ならではのものであろう。研究代表者は、中国語文化圏において商業活動として発表された映像ソフト（映画・テレビドラマ等）・出版物等に関わる古典小説作品の送り手と受け手双方の視点と、それらの作品に対して自分なりの明末古典小説の「自由な読み」を前提にした評価をした多くの人々の存在を発見し、古典小説の現代社会での価値や意義を検討する必要性を痛感したのである。

本研究の直接の先行研究はほとんどみられない。これまでは、古典小説研究は近代以前の小説を研究するものであり、それらを翻案したソフトや出版物は、現代中国文化あるいは文学の研究者が検討の対象としているからである。

そもそも明末の小説は商業的な理由により編集・出版されたものである。その意味では、現代と状況が類似しているようにみえるが、明末の小説は文字を自由に操ることのできた知識人階級によって創り出されたものであり、彼らの価値観が色濃く反映されている。これについては、これまでの数多くの論考がなされてきた。本研究において各作品を考察する際には明末白話小説が元来包有する価値観についての研究が現代との比較という意味で多くの示唆を与えてくれるであろう。

## 2. 研究の目的

本研究は、東アジア圏で中国古典小説が持つ普遍的価値を明らかにするのを最終的な目的とする。

中国古典小説が現在中国語文化圏の人々にとってどのような価値をもち、それがどのような意義を持つのかについて明らかにすることで、古典小説研究は文献研究から得られる成果とは違った形で成果が得られるのではなかろうか。

## 3. 研究の方法

### (1) 資料収集

中国語圏及び韓国を含む東アジア圏における明末白話短篇小説「三言」等の映像化作品及び翻案作品について調査する。調査方法には現地におもむいて映像資料の収集を直接行うことと、インターネットを利用することの二つを用いる。

国内での資料収集は、国立国会図書館関西館等で行う。

### (2) 成果の公開

成果の公開は以下の二つの方法によって行われる。

一つは、論文および口頭の学会発表によるものである。もう一つは、ホームページによるものである。前者は専門家に対して発信でき、後者は一般の人々に成果を発信できる。

## 4. 研究成果

### (1) 現地調査の結果

現地調査は中国2回・台湾及び韓国でそれぞれ1回行った。

いずれも、書籍、映像資料を中心に調査と収集を行ったが、以下のことが判明した。

海外での調査の結果、インターネット上での調査結果と現地での調査結果にほとんど差が無いことが明らかになった。以前は、インターネット上で確認できる映像ソフト・書籍より、実際に書店で確認するソフト・書籍の方が多種にわたっており、必ず現地で自分が確認することが必要であった。しかし、情報化が進み、販売方法としてインターネットショップが普及したことにより、実際に店頭に並ぶ商品の数が大幅に減ってしまった。上海のDVD卸売り市場でも調査したが、新しい収穫は全くなく、研究を計画した当初と全く状況が異なっていることが明確になった。この傾向は、台湾や韓国でも大きな違いは無く、研究代表者の考えていた現地調査の重要性は現実に即していなかった。

日本国内においては、香港の新聞等を確認する必要があったため、国立国会図書館関西館で資料を収集した。

### (2) 論文および口頭発表による成果発表

2008年の「白話小説「杜十娘怒沈百宝箱」の受容について-香港映画『Miss 杜十娘』を中心に」では、妓女が自分が信じた男の裏切りへの抗議を自殺という形で表現する物語を、妓女は自殺せずにたくましく生き続けるという結末に変えた映画について論じた。この翻案は舞台劇として香港で上演したときは評価されたようだが、結果として、映画は受け入れられなかった。特に大陸では上映時、結末が従来通り杜十娘の自殺で終わる形に変更されている。これは、現代人にとってそのような新しい杜十娘像は受け入れがたいものであることを明らかにしているだろう。しかし、古典小説に新たな読みを提示したことは評価できる。

2010年の「试论刘东山故事」は、2008年の武漢大学で行った発表に基づいたものである。これは、中国古典小説そ

のものの基礎的研究である。(この物語は映像化されている。)盗賊を肯定する価値観に焦点を当て、庶民の価値観について考察した。中国では無名の物語であったが、研究代表者が疑問に思っていた作品中の細かな設定について、中国人研究者から様々な意見をよせてもらい、参考になった。また、その後審査を経て『人文论丛』(武漢大学中国伝統文化研究中心)に掲載された。

次に口頭発表について述べたい。2008年の「東アジアにおける中国古典小説の受容について」(宮崎大学-順天大学校共同シンポジウム「韓日人文芸術学の対照」)では、朝鮮半島と日本の中国古典小説需要の概観を特に『剪灯新話』を中心に論じた。美術史や日本語学等日韓の様々な人文社会系の研究者が集まっていたため、知見を大いに広めることが出来た。特に中国美術の需要についても東アジア全体を視野に入れた研究が注目されている点が共通の切り口として認識できた。

2010年の「白話小説の読まれ方―「杜十娘」の場合」は、「杜十娘」の調査の過程でこの物語が中国の高等教育の国語(語文)教科書の中で扱われている現状を知ったため、具体的にそれがどのように読まれているのか考察した。妓女という存在を教室でどう教えているのか、また自殺で終わる物語がなぜ教材となり得るのか疑問点は多かったが、杜十娘が封建社会の犠牲者であるという中国での位置づけが影響していることが確認できた。教科書中での古典小説の扱いについてはこれまで考察はほとんどなく、新しい視点での発表といえる。ただし、50年代の教科書に既に掲載されていたという情報はあるものの現物が確認できているわけでは無く、現段階では調査が十分とはいえない。

2011年3月の「關於白話小説的改編一以“杜十娘”為題材」では、「杜十娘怒沈百宝箱」をさらに深く考察するため、日本及び中国での翻案状況全般にわたり考察した。日本の江戸時代ですでに翻案小説がある上に、中国人による英語による翻案作品も存在している。その点から多言語・多文化のなかでの古典小説の存在を確認できた。

2011年12月の「明代白話小説の映像化作品について」では、本研究で得られた成果を紹介し、中国の「小説」という概念から説き起こして、現在の映像化の状況と本来の小説がもつ性格との共通性について考察した。

(3)ホームページによる成果の公開  
最終年度に研究代表者は本研究で取

得した映像資料についてそのデータを公開した。

以下は、そのデータの概要である。また、今回映像化の調査の範囲は、「三言二拍」(『古今小説(喻世明言)』『警世通言』『醒世恒言』『初刻拍案驚奇』『二刻拍案驚奇』各40巻)に限定した。『三国志演義』などいわゆる四大小説といわれる小説にも映像化作品は多数見られるが、それらの数は膨大で本研究の期間では調査が終了しないことが予想されることと、すでに映像化については一定の調査があることが理由である。

#### 90年代版テレビドラマ

これまでの調査の結果「三言二拍」の映像化は、二度行われたことがわかった。まず『三言二拍電視系列劇』(1993年)がある。①と②は別々のシリーズとしてVCDが存在している。調査しても二つのシリーズについて詳細が判明しなかった。便宜上二つに分けた。

#### 90年代版テレビドラマ①

錯配鸳鸯  
白玉娘  
寂寞宮花紅  
一文錢  
牧童奇游記  
鄭月娥从良  
船尸疑案  
一着饶天下  
重会珍珠衫  
太白醉草吓蛮書

#### 90年代版テレビドラマ②

莫大姐私奔  
客舫奇縁  
转运汉奇遇  
一箭姻縁  
丹客奇談  
相会出师表  
义結生死交  
人情恩怨  
孫小官得妻  
李方哥买酒  
李方哥买酒  
羅衫恩仇記  
包公斷奇冤  
賣油郎独占花魁

#### 2004年以降版 テレビドラマ

2002年から北京時代電影有限公司制作で中央電視台6チャンネルで放送されている「三言二拍」がある。北京時代電影有限公司のホームページによると60から80話を制作する計画があるようであり、2004年の段階で15編が完成予定とある。このシリーズは、中国の動画サイトで確認できるがDVDは入手できていない。正式にはDVD化されていない。

いのかどうか、確認できていない。とはいえ、いくつかは販売されているものがあつた。ホームページで確認すると現在も継続的に制作と放映されているようであつた。

(○はDVDかVCDを実際に確認・それ以外はインターネット上のデータで存在は確認できる。また、動画サイトに動画が掲載されている。)

- 炼金术
- 毒中毒
- 一枝梅
- 长恨歌
- 常无常
- 芙蓉屏
- 花烛错
- 金玉奴
- 张廷秀
- 拉郎配
- 珍珠衫
- 卖油郎 ○
- 失银记
- 行乐图
- 玉堂春
- 毡笠缘
- 龙朝凤
- 玉马坠 ○
- 空镜记
- 三月三
- 蹉跎行 ○
- 恩仇劫 ○
- 群英会 ○
- 闯江湖 ○
- 画鸟记

#### 映画

杜十娘 1981年 中国  
MISS杜十娘 2003年 香港

以上の作品が何にもとづいたのかを以下に挙げる。

- 『古今小説（喩声明言）』  
第一巻・第七巻・第十巻・第十六巻・  
第十九巻・第二十七巻・第二十八巻・  
第四十巻
- 『警世通言』  
第九巻・第十一巻・第十三巻・第十七  
巻・第二十二巻・第二十四巻・第三十二  
巻・第三十四巻
- 『醒世恒言』  
第三巻・第七巻・第十三巻・第十九  
巻・第二十巻・第三十巻・第三十二  
巻・第三十四巻
- 『初刻拍案驚奇』  
第一巻・第二巻・第三巻・第四巻・第  
六巻・第十一巻・第十八巻・第十九  
巻・第二十七巻・第三十五巻
- 『二刻拍案驚奇』  
第一巻・第二巻・第十七巻・第十九

巻・第二十七巻・第三十巻・第三十五  
巻・第三十六巻・第三十八巻・第三十九  
巻

以上の話の中で、複数回映像化されて  
いるのは、以下の通り。

- 『古今小説（喩声明言）』第一巻
- 『警世通言』第十一巻・第三十二巻
- 『醒世恒言』第三巻・第七巻
- 『初刻拍案驚奇』第十八巻
- 『二刻拍案驚奇』第三十巻

#### (4) まとめ

明代の白話小説は、民間で伝えられ  
てきた庶民の話とされる。「杜十娘」の  
ように教科書にも登場し、人口に膾炙  
している物語もある。さらに、映像を  
いう一般に受け入れられやすい媒体で  
いまだに提供され続けており、現在も  
庶民のものだという認識が自然かもし  
れない。しかし、実のところ明代の小  
説の書き手は知識人であり、そこに描  
かれているのも決して庶民の価値観で  
はない。今でも中国の古典小説（本研  
究で扱ったのは「三言二拍」）は中華  
文化圏の人々に受け入れられているとい  
えるが、書かれたままの小説というか  
たちではなく、映像として形を変えら  
れていることもある。そこには現代の  
作り手の価値観が入り込んでいる。明  
代の小説に書き手の価値観が内包され  
るのと同じである。

今回収集した資料を検討したところ、  
おおまかにいえば、90年代までの映像  
化作品では、ドラマ内容と原作にさほ  
ど変更はない。一夫多妻制など明らか  
に現代と異なる慣習については設定が  
変更された部分が見られたが、それ以  
外はほとんど変わらない。それに対し  
て、2000年代以降の映像化作品は、原  
作の設定を借りるだけで、著しい場合  
は、表題だけが同じで、中身が大幅に  
変更されていることがある。たとえて  
みれば、包装にはなじみ深いものを用  
いて、中身は新しいものを詰めている。  
そこには、現代人の価値観を持ち込む  
という目的だけではなく、単純に現代  
人にとってわかりにくい話をわかりや  
すく、あるいはより万人受けするもの  
に変えるという目的が見え隠れし、結  
果羊頭狗肉の状態を生んだものもある。  
それが成功しているかどうかの評価は  
個別の作品によって異なるが、注目す  
べきは「ただ書かれたことを忠実に映  
像化する」のではなく、「よりおもしろ  
くしよう、わかりやすくしよう」とす  
る制作側の工夫（成功したかどうかは  
別として）があるということである。  
価値観そのものの転換は、顕著なもの  
が映画『Miss杜十娘』であつたが、そ

## 様式 C-19

れ以外はどちらかといえば、上記のようにより娯楽性を求める傾向が強い。

さて、映像化の手法にはここ20年で変化も見られたが、変わらない部分もある。白話短篇小説は語り手にその出来事の評価をさせ、登場人物の批評をさせる。そして、読み手の価値判断の方向を決定してしまう。すなわち、古来より、中国の白話短篇小説はその人物の言動が正しいのかどうかという価値判断をしながら読むものであったともいえる。現在映像という形で古典小説を享受する際も、人々は登場人物の言動が最も気になるところである。それは、教科書に扱われた「杜十娘」がどのように教室で教えられているのかに象徴されるだろう。それぞれの登場人物の行動について、生徒は評価を求められ、結局は、皆が杜十娘に同情し、裏切り者の男達に怒りを覚えるような解釈しか許されない。そして、その根拠は小説の中の人物達の行動である。人々は、物語から何かを得ようとする。物語に教訓性を求めるために、しばしば、娯楽性が失われる現象がみられる。ブログに書かれる無数の物語への感想は、ほとんどが小説の登場人物への共感や怒りである。作り手が変わっても受け手の変化は小さいともいえる。大陸では杜十娘が死なない結末が受け入れがたかったことがその表れだろう。

現在日本では時代劇放送は年々少なくなっている。しかし、中国を含めて中華文化圏では、いまだに時代劇の人気は高い。武侠小説の映像化や『三国志演義』等有名な小説、ゲームなどに関わりの深い作品に（売れるものがよく作られるという構造であるので当然）偏りがあるものの、そのような商品の中に「三言二拍」と銘打って地味な明代の短編小説を映像化し、それを享受する人々がいるのが時代劇全体の裾野の広さを感じさせる。古典という枠組みが中華文化圏では有効な表現手段といえる。（韓国でも時代劇の制作が盛んであることもよく知られているが、ここでいうのはあくまでも古典作品に基づいた映像のことである。）

我々がこの事象について考察するとき、表面的な部分に注意することはもちろんだが、同時に人々はその枠組みを必要としている点に注目すべきだろう。

また、時代を変え、作り手を変え、素材として何度も扱われることに耐えるのが「古典」である。その意味で、古典小説はこれからも東アジアの中華文化圏で娯楽性のある素材として価値を持ち続けることは間違い無い。

そして、これらの現象は、なにより

「古典」が今もその文化の根底にあることを示している。この古典世界は社会体制の変化に関係なく脈々と受け継がれているということではないか。

なお、研究代表者が2010年に産休および育休を取得したため、本研究の当初の計画を大幅に変更せざるを得なかったことを申し添える。

### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

① 上原徳子 「白話小説「杜十娘怒沈百宝箱」の受容について-香港映画『Miss 杜十娘』を中心に」『饕餮』第16号、査読有り、2008、75-94

② 上原徳子 「试论刘东山故事」『人文论丛』2009年卷、査読有り、2010、443-453

〔学会発表〕（計5件）

① 上原徳子 「关于刘东山故事」 明代文学与科举文化国际学术研讨会 中国 武汉大学 2008年11月11日

② 上原徳子 「東アジアにおける中国古典小説の受容について」 宮崎大学-順天大学共同シンポジウム 「韓日人文芸術学の対照」 韓国 順天大学 2008年12月12日

③ 上原徳子 「白話小説の読まれ方―「杜十娘」の場合」2010年度中国古典小説研究会大会 2010年8月30日 国立女性教育会館

④ 上原徳子 「關於白話小説的改編——以“杜十娘”為題材」 多言語多文化同時学習支援国際シンポジウム 台湾 東呉大学 2011年3月27日

⑤ 上原徳子 「明代白話小説の映像化作品について」 多言語多文化同時学習支援国際シンポジウム 宮崎大学 2011年12月17日

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕  
ホームページ等  
<http://miyazakiac.jp/uehara/subsidy/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

上原徳子 (UEHARA NORIKO)  
宮崎大学・教育文化学部・准教授  
研究者番号：50452917

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし